

牧島地区

19. 庚申塔と藤棚

瀬戸町の瀬戸バス停の近くに藤棚があり、春には藤の花が見事です。その下に庚申塔があります。「寛政十三年（1801）酉四月吉祥日」に建立され、大正7年（1918）九月に改修されたものです。庚申は十干十二支の一つで「かのえさる」にあたります。庚申の夜に眠ると、人体に巣くう三戸という天界のつかいが天にのぼり、天界で人の寿命を司る上帝にその人の罪を告げ、寿命を削ると信じられました。そこで庚申の夜に徹夜する庚申待ちという習俗があります。庚申待ちをする仲間は講をつくり、信仰の証として庚申塔を建てました。

